

長崎市立図書館 クラウドファンディングへの挑戦

A Challenge to Crowd Funding at Nagasaki City Library

長田由美†

OSADA Yumi †

概要 本小論では、長崎市立図書館におけるクラウドファンディングの試みについて報告する。

キーワード 公共図書館、受託業務、クラウドファンディング

Keywords Public library, Outsourcing, Crowd Funding

1 はじめに

長崎市立図書館は2018年1月5日に開館10周年を迎えた。運営の総括責任者として勤務していた著者は開館10周年を盛り上げるためにクラウドファンディングに取り組むことにした。その取り組みの経緯や結果をまとめる。

2 長崎市立図書館について

長崎市立図書館は2008年1月に開館した。PFI手法によって設計・建設から維持管理・運営まで民間事業者が行っている。事業は特別目的会社（SPC）である株式会社長崎クロスライブラリーが実施し、図書館運営は株式会社図書館流通センターが行っている。運営の契約期間は15年間。医療情報サービスの取り組みなどで知られている。

著者は2016年7月より総括責任者として赴任し、組織づくりや事業企画の見直しに努めた。長崎市立図書館は著者の在任中にちょうど10周年を迎えるため、利用者や関係者への御礼の意味も込めて10周年を記念した取り組みを実施したいと考え検討した。

3 クラウドファンディング実施への経緯

10周年記念として行いたいことがたくさんあり、そのための資金を得る方法を考えた。企業協賛を募ることやイベントで入場料収入を得ることなども考えたが、クラウドファンディ

ングを選択した。挑戦の過程そのものが10周年を記念する取り組みとなると考えたからである。

また、ビジネス支援サービスの年度のテーマとしてクラウドファンディングを取り上げていたこともきっかけとなった。年度当初から地域振興を目指しているFAAVO長崎の方々にお会いし、図書館として取り組めることはないか検討していた。クラウドファンディングについてのセミナーや体験者との交流会を企画していたが、自ら挑戦し体験したことを発表できるのではと考え、挑戦することに決めた。

4 実施主体の工夫

長崎市立図書館はPFIの委託なので、運営事業の一部としてクラウドファンディングに挑戦するなら、自治体の決裁を受ける必要がある。著者らが主体的に実施したいと考えていたため、責任が自治体へ及ばない方法を考えねばならなかった。

そこで、「長崎市立図書館10周年記念応援プロジェクト」を立ち上げることにした。図書館員有志を中心としたプロジェクトで、図書館運営業務外の時間で作業にあたることにした。事務局長は元長崎外国語大学学長の池田紘一先生に依頼した。池田先生は開館以来、講演会等でお世話になってきたご縁のある先生である。このプロジェクトがクラウドファンディングで資金調達を行い、集めた資金で制作した記念グッズや記念リーフレットを市立図書館に寄

† 株式会社図書館流通センター

贈するという形をとった。リーフレットに載せる長崎市立図書館の歩みの原稿制作は司書が、印刷発注は事務局が、という風に分担した。図書館の運営資金をクラウドファンディングで調達するという誤解を避けるために厳密に線引きした。

5 実施内容

5.1 プロジェクト公開前

通常は運営サイトを選ぶところから始まるのだが、我々はFAAVO 長崎で行うことを決めていた。達成目標は 50 万円とし、オールオアナッシングの達成時報酬型とした。支援コースは 500 円から 110,000 円まで 9 種類設定し、期間は 40 日間とした。

表 1 リターン品一覧

リターン品一覧
お礼状
リーフレット
リーフレットへのお名前掲載
ポストカード（写真 3 種、イラスト 1 種）
活版印刷ポストカード
てぬぐい
トートバッグ
カフェレストラン池田屋お食事券
イベント優待券
長崎おいしいモノ詰め合わせセット （3 パターン）
※イラスト原画（2 種） ※後から追加

ポストカードのための作品制作はクラウドファンディング終了後では間に合わないため、前倒しで長崎在住の写真家繁延あづささんと長崎出身の美術家田川誠さんをお願いした。お二人にはこれまでもワークショップ実施などでお世話になっていたこともあり、快く引き受けていただいた。

繁延さんは図書館を撮影場所に各年齢層の利用者の発見の喜びを表現した作品を制作してくださり、市内在住の利用者の方が撮影に協力してくださった。田川さんは図書館をイメージしたクマをモチーフにした作品を制作してくださった。長崎市立図書館の場所にはかつて活版伝習所があり、ポストカードの 1 種類は活

版印刷で制作した。これまでも長崎印刷組合と一緒に活版印刷を知ってもらうための図書館行事を行ってきており、どうしても活版印刷で、というこだわりがあった。クマのモチーフはポストカード以外にも、リターン品のグッズ（てぬぐい、トートバッグ）にも使用させていただき、特別感のあるオリジナルグッズを制作することができた。

5.2 プロジェクト公開中

プロジェクト公開中はFAAVO 長崎のプロジェクトのページの更新以外にも Facebook と Twitter を使った情報発信を行った。ちらしやパンフレットといった紙媒体も作成し、図書館総合展のフォーラム会場で配布したり、関係者に支援をお願いする際にも使用したりした。FAAVO 長崎地域オーナーである長崎新聞社によって新聞に広告記事が掲載された際には、図書館内で利用者より支援申し出を受けることもあり、急ぎで銀行口座を案内するチラシも作成した。著者らが参加する会合や会議、懇親会等のすべての機会に支援の呼びかけを行った。

2017 年 10 月 16 日に公開し、11 月 15 日には目標金額の 500,000 円を超え、11 月 26 日の最終日には 760,000 円を集めることができた。長崎県内の支援者が 68 名、県外支援者が 52 名、合わせて 120 名のご支援をいただいた。当初は直接支援をお願いした知人や関係者が多かったが、目標額に近づくにつれ一般の皆さんからの支援が増え、目標額に到達してからもしばらくはそういう状態が続き目標額を大きく上回ることとなった。

表 2 支援コース別支援者一覧

支援コース別支援者一覧	
500 円	10 人
2,000 円	35 人
5,000 円①	7 人
5,000 円②	30 人
10,000 円	29 人
20,000 円	6 人
30,000 円	3 人
80,000 円	0 人
110,000 円	0 人

5.3 プロジェクト公開後

公開後に本格的にリターン品の準備に取り掛かった。支援者が確定するまで正確な発注数が見つからないため、発注や仕入れは確定後まで待たねばならなかった。

この時点では地域の食品会社とはそれほどつながりはなく、スタッフからの紹介や商工会婦人部へ出向いてのお願いをするなどして協力企業を募った。協力してくださる企業があるがたいことに予想を上回ったため、リターン品の「長崎おいしいモノ詰め合わせセット」には支援者から大きな反響があった。

表3 協力企業一覧

協力企業一覧	
A 社	びわ茶、和紅茶、ほうじ茶
B 社	カステラ
C 社	トマトカレー
D 社	みかん
E 社	カステララスク、角煮
F 社	ふりかけ
G 社	ちゃんぽん、皿うどん
池田屋	(図書館内カフェレストラン) 食事券

記念イベントとしてはテレビプロデューサーを招いての講演会を開催した。図書館行事として行った出版社講演会と合わせてメディアの未来を考えるというテーマ性を持たせた。利用者が本やテレビなどメディア全般について考えるきっかけを作りたいとの思いで設定したテーマであった。

そして、10 周年の記念式典は当初予定になかったが、クラウドファンディングが話題になったことにより自治体主導で執り行われることとなった。式典内でクラウドファンディングによって集めた資金で制作した記念グッズと記念リーフレットを市長に寄贈する一幕も設けていただき、取り組みについての発表もさせていただいた。

6 まとめ

クラウドファンディングに挑戦してみて、資金を集めるだけではなく、支援してくださる人とつながること、プロジェクトを行うことに意義があり、集まった金額以上の様々な効能があ

った。リターン品の制作や調達に最も時間や手間がかかったが、その過程もプロジェクトの目的の一つであったため問題はない。関わった図書館員有志は初めてのことばかりで戸惑いながらもとてもいい経験をしたと思う。今後の図書館員としての仕事にもきっといい影響があるだろう。

また、地元企業にリターン品の相談をさせていただいたことにより、図書館を知ってもらいきっかけになり、つながりを持つこともできたことは大きな成果だ。

最後に、クラウドファンディングの取り組みを知り、支援しようとしてくださった市民の皆様、全国の図書館関係者の皆様には本当に感謝しかない。この場を借りて御礼の言葉を述べさせていただきたい。

参考文献

- ・FAAVO 長崎「長崎市立図書館開館 10 周年をみんなと一緒に盛り上げたい!!!」
<https://faavo.jp/nagasaki/project/2304/report> [確認:2018 年 9 月 10 日]
- ・大和田康代・石津朋之「クラウドファンディングによる資料費獲得への取り組み—図書館員はクラウドファンディングの夢を見るか?—」『図書館雑誌』111(8), 2017. 8, p. 502-503.
- ・磯谷奈緒子「～島根県隠岐島海士町中央図書館にみんなで本を贈ろう!～あま図書館応援プロジェクトの取り組み」『情報の科学と技術』64(8), 2014, p. 312-317.

[受理:2018 年 9 月 10 日]